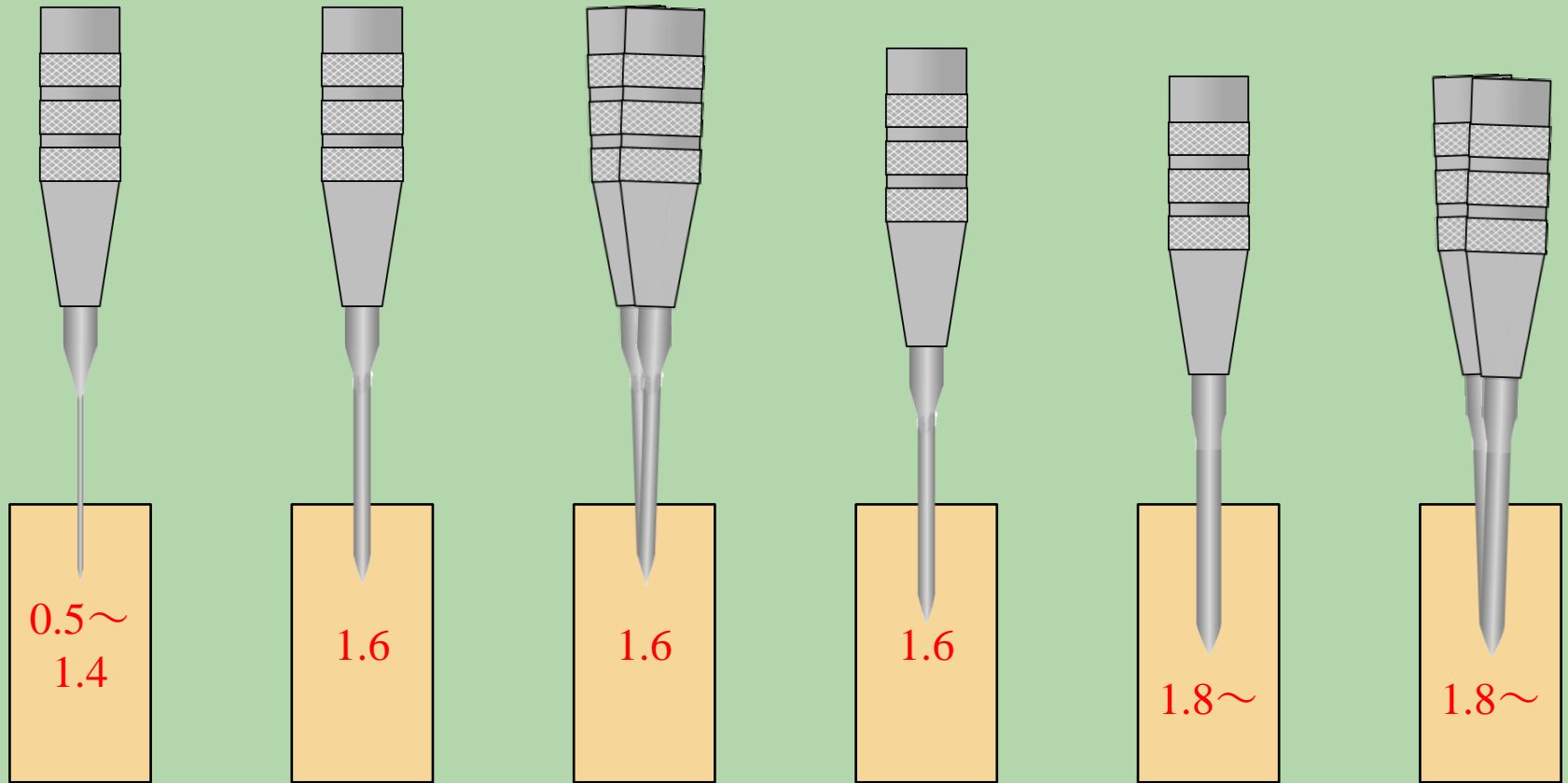




骨に優しくアプローチする “ジグリング法”

監修・解説：鈴木 光雄先生

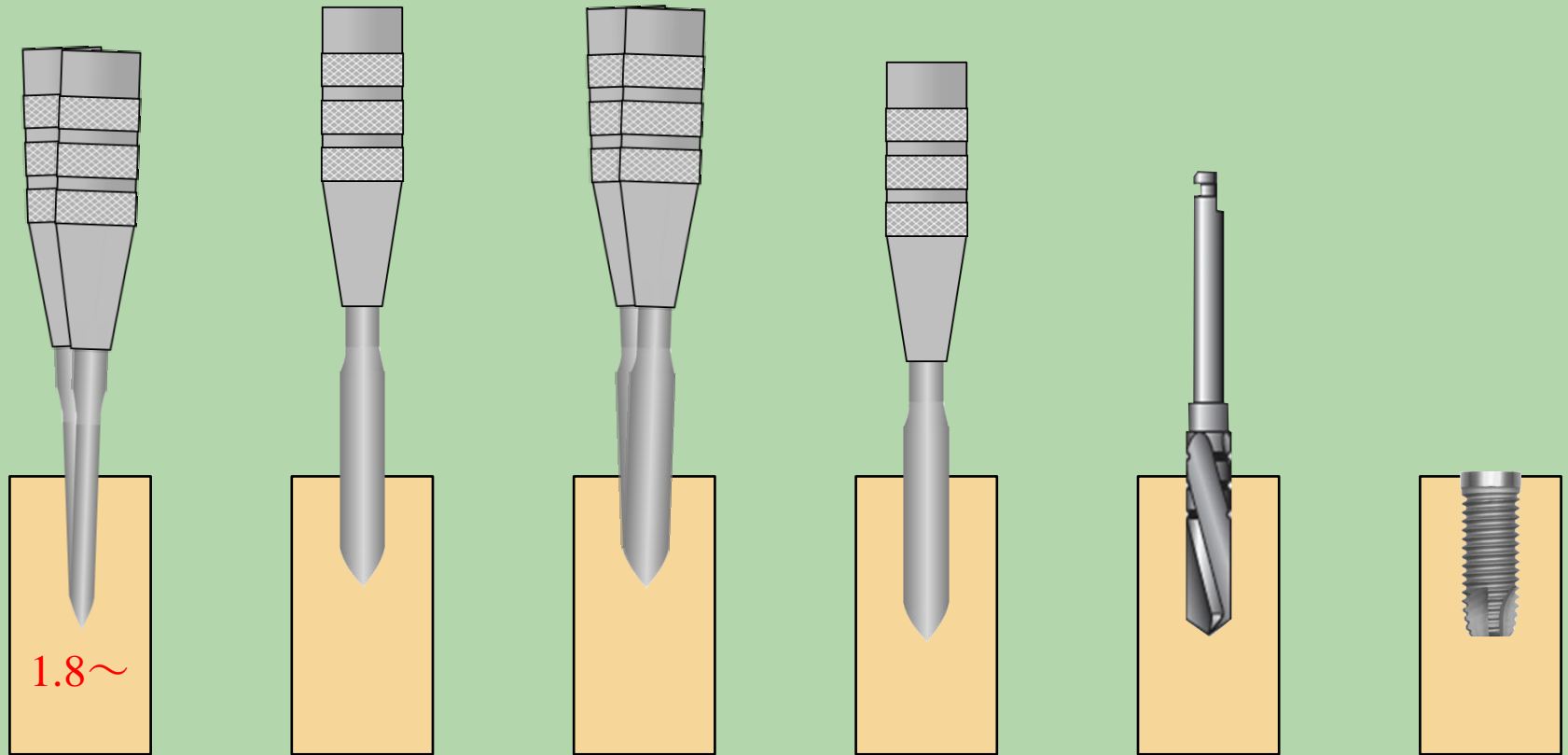
ジグリング手順



$\phi 1.4$ まではインプラント窩まで挿入できなければ骨内に挿入するのみとします。埋入するインプラント長まで達しない場合の対処法がジグリング法です。

ジグリング可能なサイズは $\phi 1.6$ からです。ジグリングして骨頂部を微妙に開放すると、海綿骨の中を軽い力で推進させていくことができます。

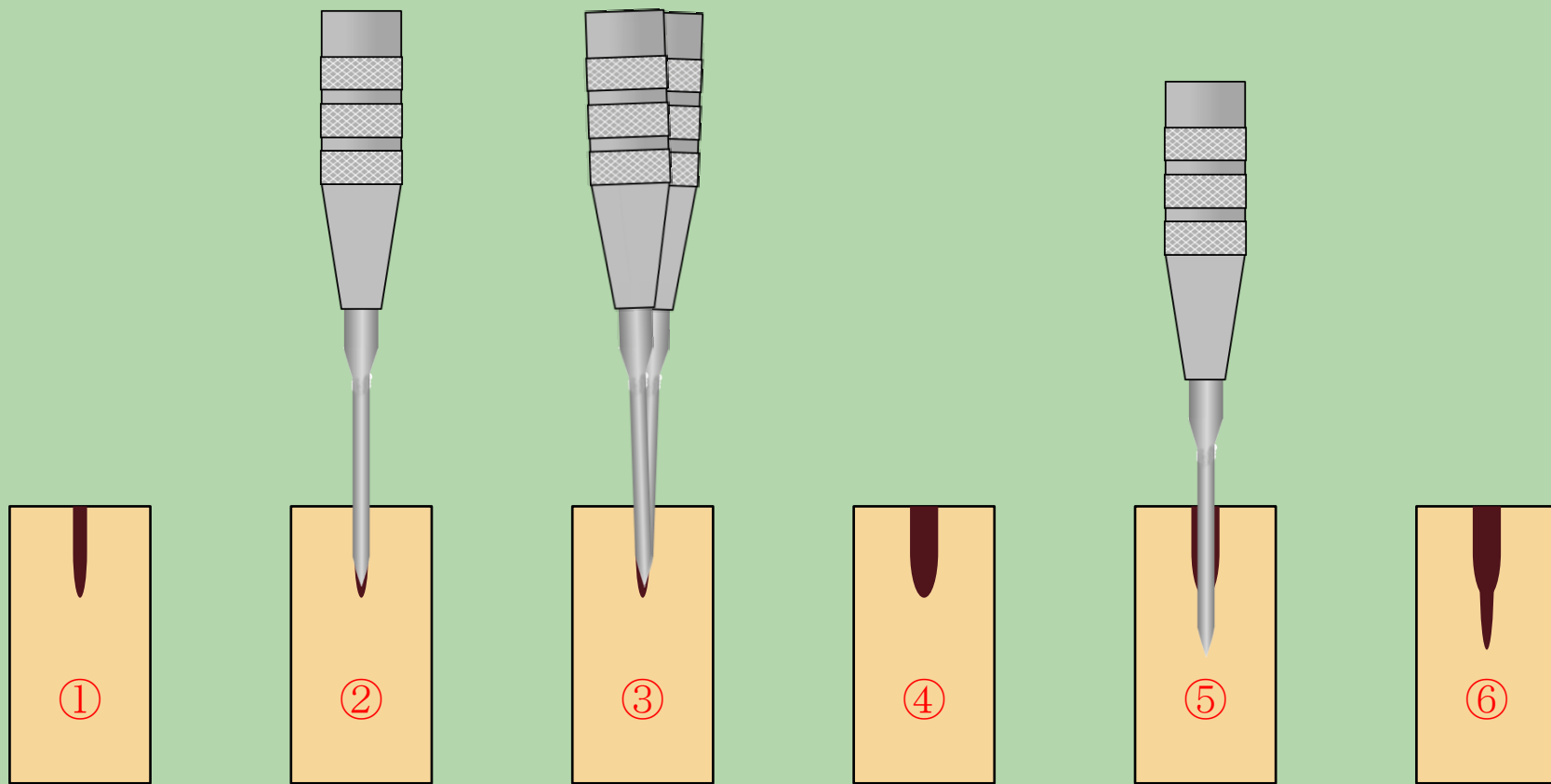
ジグリング手順



オーギュメーターはサイズが大きくなるにつれて挿入し辛くなることもあります。理由は骨との接触面積が大きくなり抵抗が増すからです。その場合は再びジグリングをして骨頂部のタイトな部分を開放します。

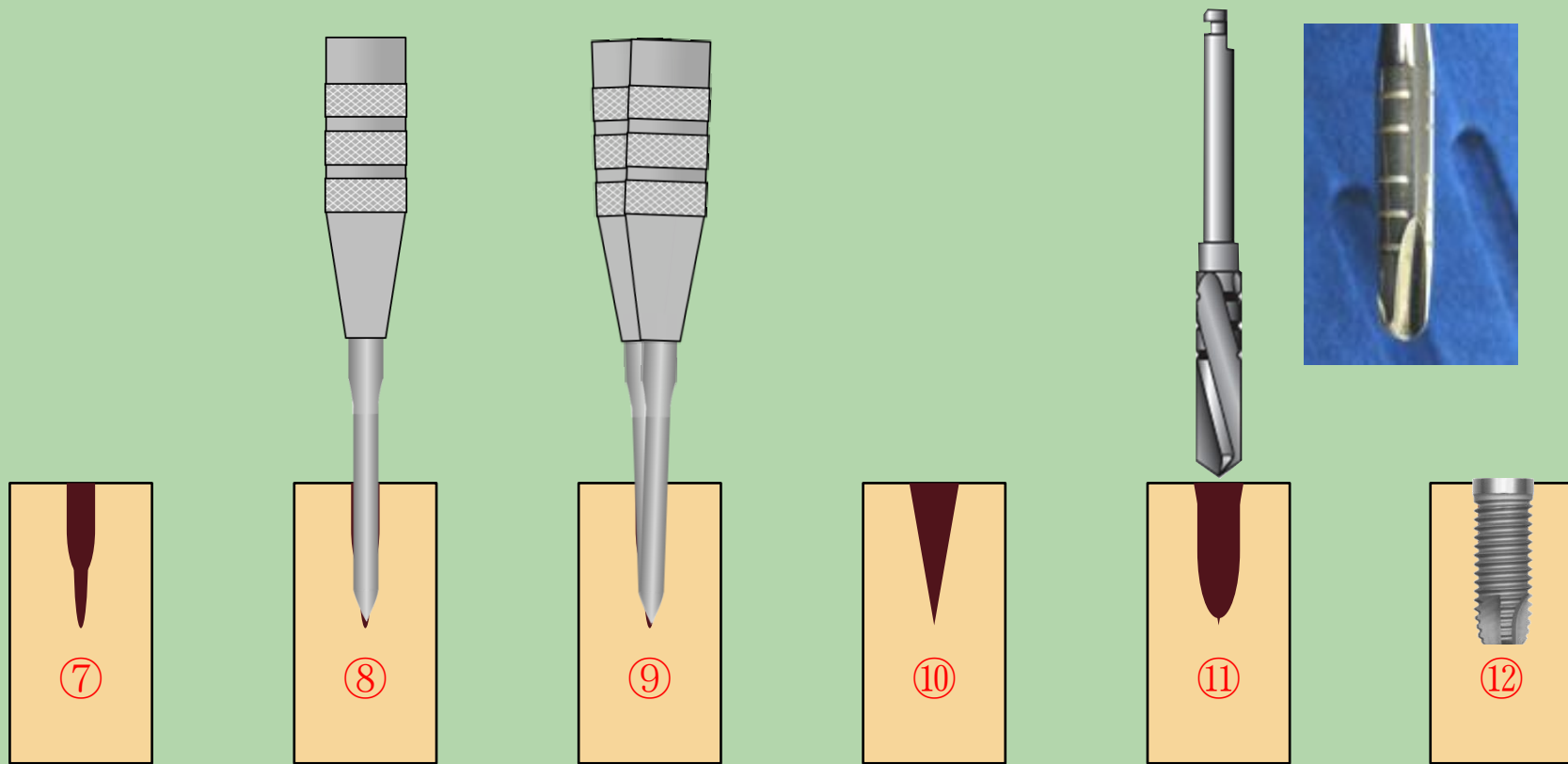
最終ドリルもしくはカービングオーギュメーターを使用してソケット先端部を形成してインプラントを埋入します。

ジグリング手順（断面図）



- ①：φ1.4まで使用して拡大したインプラント窩。
- ②：オーギュメーターが無理なく挿入できる深度でいったん止めます。
- ③：軽くジグリングします。
- ④：ジグリング後のインプラント窩。
- ⑤：目的とするインプラント長まで反転運動で揉込みます。
- ⑥：インプラント長まで形成されたインプラント窩。

ジグリング手順（断面図）



⑧：サイズアップして拡大します。

⑨：次のサイズが挿入し易いようにジグリングしておきます。

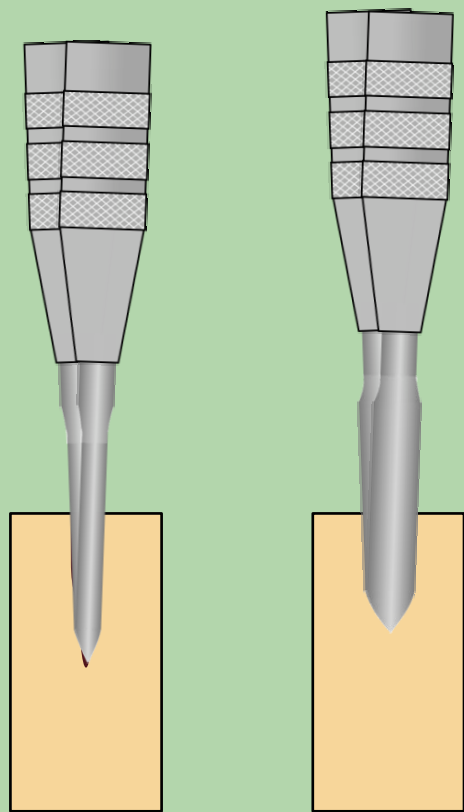
⑩：ジグリング後のインプラント窩。

⑪：インプラント窩先端部の形体は最終ドリルもしくはカービングオーギュメーターで形成します。

⑫：埋入。

カービングオーギュメーターで行えば、より安全にオペが行えます。

ジグリングの振り幅



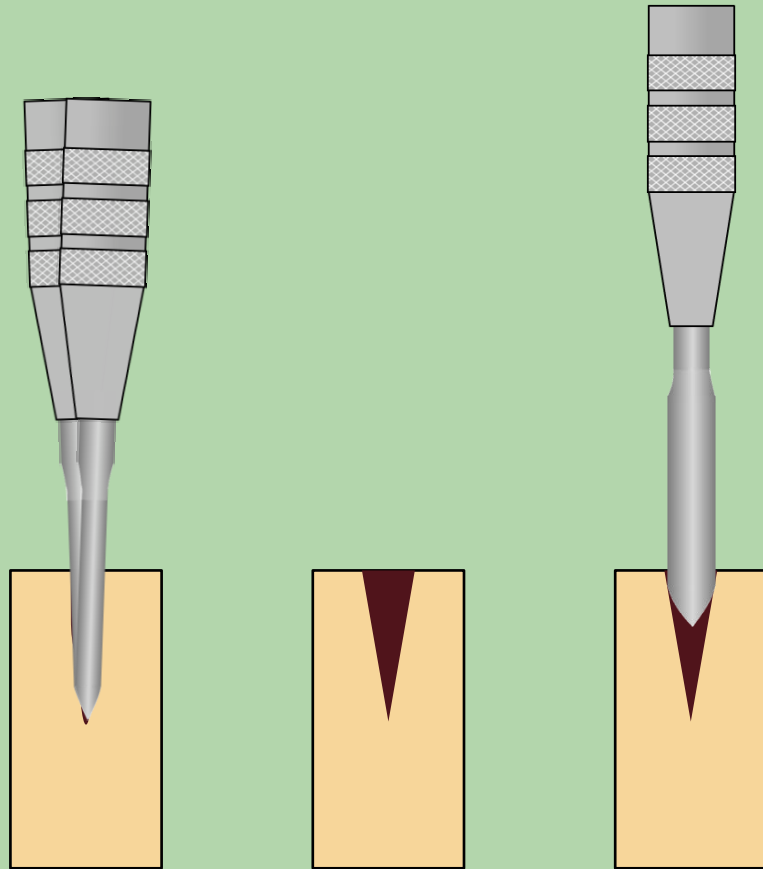
ジグリングの振り幅は使用しているオーギュメーターの次のサイズが挿入できれば充分です。

オーギュメーターのサイズアップは0.2mmです。理論的には左右の振り幅0.1mm（直径0.2mm）になります。やや緩く挿入するには左右の振り幅0.2mmにしてください。

オペ動画のハンドル保持部あたりのジグリング量は大きく感じますが、先端部のジグリング量は直径0.4mm程度になっています。

（オペ動画は会員専用ページをご覧ください。）

0.2mmのアドバンテージ



ジグリング後も0.2mmのサイズアップを遵守してください。

いきなりサイズアップすると裂開の可能性あります。

また、途中でスタックしてしまうため無理な力を要します。(左図)

骨に圧力を加えることなく拡大すれば裂開を防止することができます。

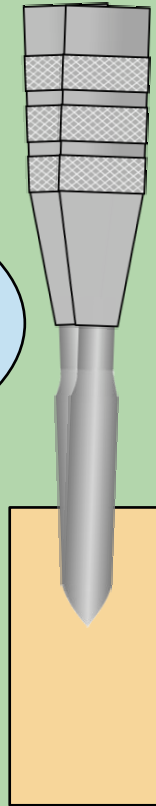
0.2mmのサイズアップであればインプラント周囲に0.1mm(半径分)の拡大となりコンデンス効果のみとなり、コンプレッションの心配がありません。

ジグリングの使い分け

骨幅4.0mm以上

: ジグリングのみ
もしくは
: プレスリッティング
を併用

目的
: コンデンス
: 僅かな骨幅拡大



骨幅4.0mm以下

: ジグリング
: スリッティング

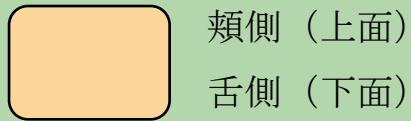
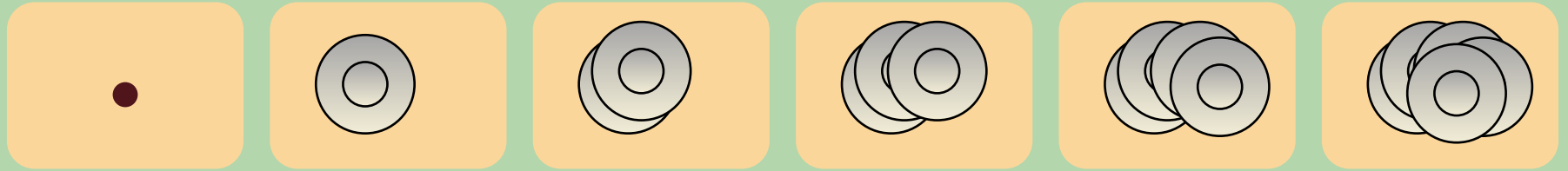
目的
: 大幅な骨幅拡大



僅かな骨幅拡大とは海綿骨のコンデンスと安全にオペを遂行することを目的とした使用の場合です。骨幅が充分でも皮質骨が厚い場合には、スリッターを使用してスムーズなオーギュメーターの骨内挿入を促します。

大幅な骨幅拡大とは骨幅2.0mmに直径3.7mm～4.2mm程度のフィクスチャーを埋入することを目的とした使用のためスリッティング施して歯槽骨板のボリュームを維持したまま拡大します。

ジグリングの方向



頬側（上面）

舌側（下面）

● : ソケット

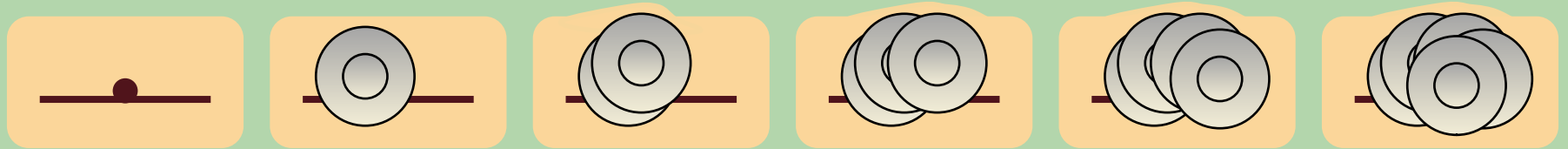
○ : ハンドル上面

ジグリングは頬側方向に「の」の字を描くように動かします。

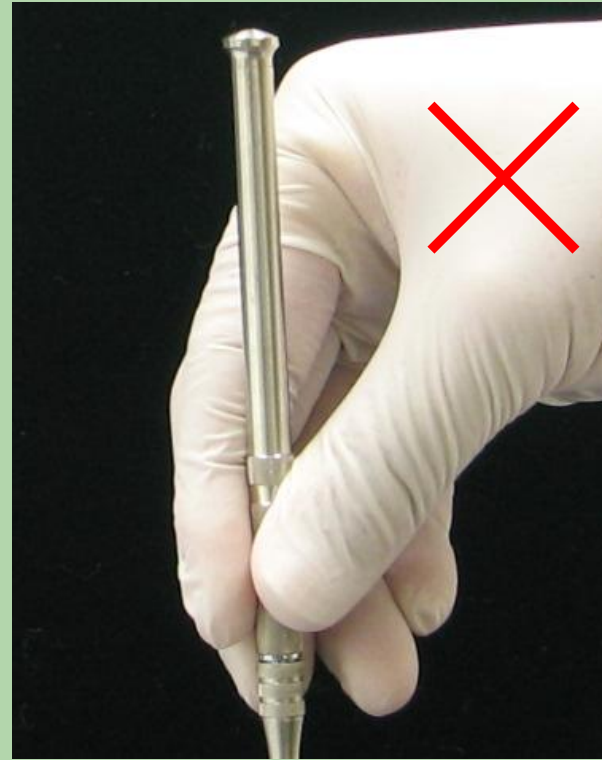
狭窄骨の場合、骨頂部に近遠心方向の溝を付与すると拡大効果が高まります。（下図参照）

付与しない場合はコンデンス効果が高まります。

スリッティングを併用した場合の骨の拡大イメージ



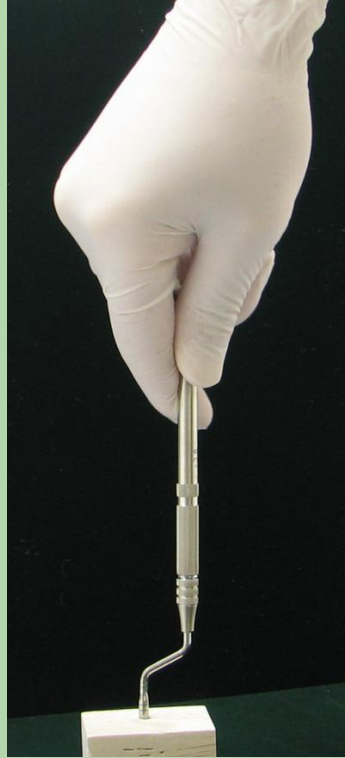
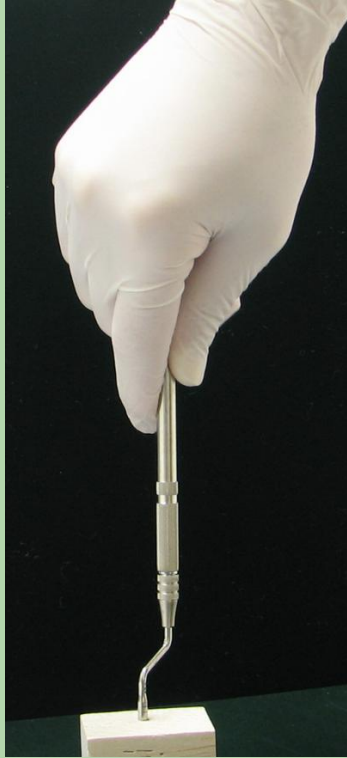
間違ったハンドルの保持法



いずれの保持法も間違いです。

リーマー感覚でインプラント窩を設けるOAM法ですが、指先だけで回すことは効率的ではありません。

正しいハンドルの保持法

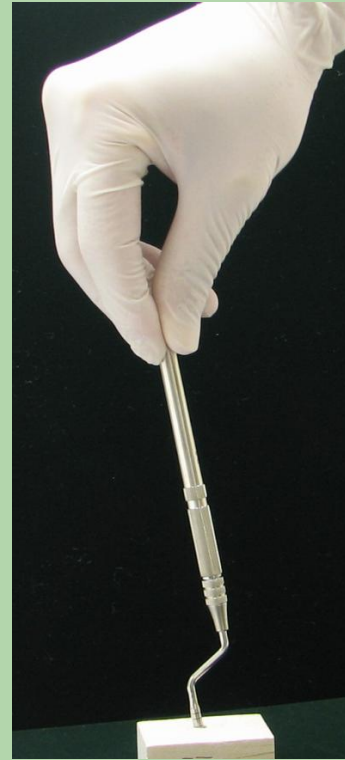
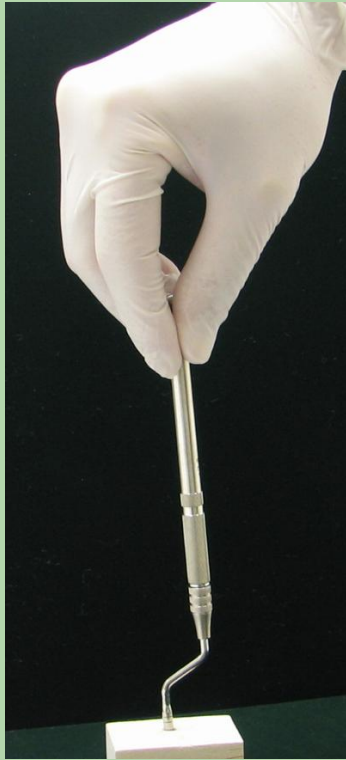


正しい保持法はハンドル上面を包み込むようにします。手首のスナップを利かせて軽い力で反転運動させるのが効率的です。あくまで軽い力です。

無理な力が必要と感じたら、その部分で一度止めてください。先端部を固定（あくまでイメージ）してから“ジグリング”します。

ジグリング画像は次項に紹介しています。

ジグリング



ジグリング時は更にハンドルの上部を保持します。
シェフが“スープをかき混ぜる動き”のごとく優しく丁寧な動きです。決して
“すり鉢と”すりこぎ“ではありません。